

## 畑わさびにおけるナトビハムシの生態と薬剤防除

### 【1 成果概要】

- 畑わさびの花茎、葉柄、葉を食害するナトビハムシは年1化です。
- ナトビハムシに対しては、ミドリサルゾウムシを防除対象としたジメトエート粒剤の効果が劣ります。
- ナトビハムシ成虫の発生初期にあたる4月か9月に、エトフェンプロックス粒剤を3kg/10aの割合で株元散布します。

ミドリサルゾウムシも同時防除できます。

### 【2 効果】(成果PR)

- 1 高品質な生産物が出荷可能です  
(→慣行防除剤の効果がなため)
- 2 生産者の防除労力が減少します  
(→処理量は慣行防除剤の半分)
- 3 森林認証制度(FSC)もクリアします  
(→使用不可能な薬剤リストにない)



図1 ナトビハムシの成虫(左)と幼虫(右)

### 【3 留意事項】(ユーザー視点)

- 1 定植時と定植2年目株に施用します。
- 2 成虫発生時期、すなわち粒剤施用適期は圃場立地条件や当該年の気象条件によって多少前後します。
- 3 本剤処理後の残効期間は約1か月間です。
- 4 7月中旬～9月上旬は成虫が出現しないので防除不要です。

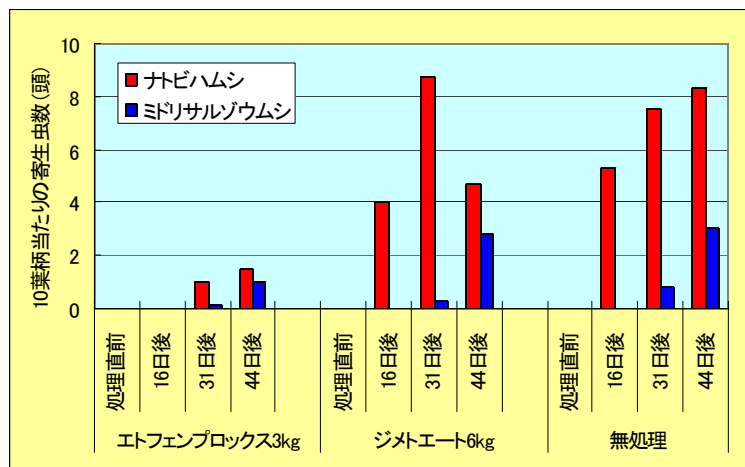


図2 越冬成虫発生初期(4月下旬)の粒剤処理効果

### 【4 適応対象】

- 1 地帯
  - (1)畑わさび栽培地域
  - (2)普及見込み面積 20ha
- 2 対象者
  - (1)ジメトエート粒剤を処理しても、被害が減少しない生産者

### 【5 導入コスト】

- 1 資材費(概算)
  - (1)10a 当り 3kg 処理で、2,500 円
  - (2)参考:慣行のジメトエート粒剤の10a 当り 6kg 処理では、2,000 円
- 2 入手方法
  - (1)注文先・・・各JA支店、農薬販売店